

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

教育を支える税金

長岡市立栖吉中学校

三年 礒谷 祐里

私達は普段、当たり前のように学校に通い、日々学習をしている。こうして私達が当たり前のように学習ができるのは、税金が教育を支えてくれているからである。

私の通う中学校では、「教育のデジタル化」がかなり進んでいる。私が中学一年生のとき、校舎にWiFi設備が完備され、一人一台タブレットが配られた。それ以来、生徒がスライドを作ったり授業で発表したり、生徒会がタブレットでアンケートをとったりなど様々な場面で大いに役立てられている。また、学習アプリで復習ができたり、体育の授業で動画を撮影し、自分の動きを確認できたり、以前よりさらに良い学習環境になったと改めて感じる。当時の私は、

「一人一台なんてすごいな。」

というくらいにしか思っていなかったが、今考えてみるとこのようなデジタル化が実現したのは、たくさんの方が一生懸命働いて「納税」という義務を果たしてくれていたからなのだと分かる。タブレット以外にもエアコンなどの校舎の新設備の設置や教科書、ファイル、机など学習に不可欠な様々なものが税金によって

まかなわれ、私達の学校生活を支えている。このようなことから考えてみても、教育費は中学生にとって最も身近な税といえるだろう。

令和元年度、公立学校の中学生一人あたりにかかった教育費は年間約一〇九一〇〇〇円で、一日あたり約五四五〇円かかっている計算になるという。私は、自分が一年間学習をするのにこれだけの税金があてられているということを初めて知り、とても驚いた。もし、税金が無かったら教育費が自己負担になり、教育を受けられず、社会に出るために必要な知識が身につけられなかったかもしれない。そして、深刻な教育格差が生まれてしまったいたかもしれない。そう考えると、以前よりも快適な空間で当たり前のように学習できていることのありがたみやそれを支える皆さんの納税者がいること、その人達への感謝を忘れてはならないと強く思う。

私達のために使われている教育費という税金は、多くの人の努力と私達の未来への期待がこもった大切なお金だ。また、多くの人が期待を込めて「納税」という義務を果たしてくれているように、私達にもその期待に応え、よりよい未来をつくる義務がある。私達生徒は、そんな大切な税金や学ぶチャンスを無駄にしないためにも、日々学習に励み、これからの社会を支えられる大人になるべきだと思う。

私は、これから当たり前前に教育をうけられることへの感謝を忘れずにもっと学習に励み、期待に応えられるような大人になりたい。そして、今度は自分が先の未来をつくる子供達を税金を通して支えていきたい。